優秀賞 中学生部門〈手術・病気〉

母の笑顔

鹿児島市立鴨池中学校 1年
榎田 任家

母が入院したのは僕が幼稚園の時だった。その日は祖父母参観の日でとてもワクワクしたのを覚えている。笑顔で手を振って出かけた母は、その日から二ヵ月間家に帰ってくる事はなかった。家には、父・妹・祖父母がいたが、幼いながらも寂しさを感じていた。

次の日、祖父母と妹と一緒に、病院へ行った。

母は、沢山の白い布団が置かれたベッドが並ぶ部屋で、赤い血が流れる管につながれていた。

扉の前で、足がすくんでいる妹を横目で見ながら、祖父母の手を力強くにぎりしめ、母の元へと近づいて行った。

病名は「腎不全」透析をしている様子だった。

それから二年後、僕が小学一年生の冬、祖母から腎臓をもらい移植手術を受けた。

母と会えない、面会謝絶から一ヶ月僕ら兄妹・父の為、祖父母の為、母は生きる事への希望と努力をしていた。

あれから七年、今でも入院はくり返し、一生薬を飲む生活ではあるが「僕らの成長を見る事が幸せ」と言って笑う母の姿はとても輝き、生きる力の源は僕らなのだと実感するのであった。